

### Ⅲ プロジェクト研究

#### 1 社会的背景と課題

現代社会において、子どもたちを取り巻く環境は、めまぐるしく変化しており、様々な社会的背景から課題が捉えられている。そこで、本センターでは、以下の5つを課題として捉えた。

##### ア 生活様式の多様化

【課題】 「遊びのバーチャル化」「家庭での役割の減少」など、自然体験や生活体験等の直接体験の機会が不足・減少している。

##### イ 生活環境の変化と身体を動かす時間の減少

【課題】 「歩く」「走る」「声を出す」等の機会の減少による基礎的な体力の低下、運動能力が十分発達していない。

##### ウ 地域社会との関わりの変化と集団活動の減少(「集団」から「個＝孤」へ)

【課題】 「地域での活動や外での遊び」の減少など、対人関係が希薄になり異年齢や異世代との交流の機会が少ない。

##### エ 若者の社会的自立の遅れ

【課題】 学習意欲や勤労意欲が低く、コミュニケーション能力が低下している。

##### オ 家庭の教育力の低下

【課題】 「早寝、早起きをする」「あいさつをする」「規則正しい生活をする」などの基本的生活習慣が身に付いていない。

#### 2 研究主題

### 学校と連携・協働した体験活動の在り方

～教育課程への位置付けを目指して～

#### 3 研究主題設定の理由

青少年社会教育施設等で行われる自然体験活動を中心とした活動プログラムは、学校や家庭では得ることができない体験活動をとおして、上記に挙げた社会的背景からの課題の克服はもちろんのこと、子どもたちの学び合い、育ち合いに大きな効果があると期待されている。また、子どもたちの体験活動(生活・文化体験、自然体験、社会体験)の充実が学習意欲や自己肯定感、規範意識の高揚につながっているとの研究成果もある。

新学習指導要領(現行)において、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするかを明確にしながら、社会との連携・協働によりその実現を図っていく」としていることから、青少年社会教育施設は学校教育と連携を密に図っていく必要がある。しかし、近年、コロナ禍の影響により、学校を取り巻く環境は様変わりし、集団宿泊学習をはじめとする学校の本施設利用も規模を縮小するなどの傾向が顕著に表れてきている。

そこで今一度、本施設における集団宿泊学習の有用性について検証し、体

験活動のよさや教育的効果について実証していくことの意義は大きいものと考えた。また学校にとって集団宿泊学習を展開しやすくするための手立てとして、昨年度から研究を進めている、本センターの活動プログラムを教科等に関連付けさせる取組を継続することで、より充実したカリキュラムマネジメントが構築できるのではないかと考え、研究を進めることとした。

#### 4 昨年度（令和2年度）の取組（1年次）

本センターにある既存の活動プログラムを見直し、集団宿泊学習をはじめとする施設利用時に、教科等と関連付けて提案できる単元指導案を作成した。

本センターの活動プログラムは、「野外活動及び自然観察」、「文化創作活動」及び「レクリエーション」の3つの分野から構成されており、各研修班において学校が利用しやすい活動プログラムを2つずつ選び、小・中学校の教育課程への位置付けを意識して、各教科、領域等と関連をもたせた単元指導案づくりを行った。

以下に作成した単元指導案の活動プログラムを示す。

##### 《野外活動及び自然観察》

活動プログラム	学 年	教科等	単 元 等
野外炊事	小学5年	家 庭	・家族の生活再発見 ・食べて元気に ・できるよ家庭の仕事
野外協力ゲーム	小学5年	特別な教科 道 徳	B 主として人との関わりに関すること [相互理解, 寛容]

※ 詳細については、別冊の「単元指導案集」に示す。

##### 《文化創作（クラフト）活動》

活動プログラム	学 年	教科等	単 元 等
ベニヤパズル	小学5年	図画工作	糸のこの寄り道散歩
陶芸A	中学1年	美 術	暮らしに息づく土の造形

※ 詳細については、別冊の「単元指導案集」に示す。

##### 《レクリエーション》

活動プログラム	学 年	教科等	単 元 等
室内運動会	小学5年	体 育	体づくり運動（体ほぐしの運動）
レクリエーション2	中学1年	学級活動	よりよい人間関係の形成

※ 詳細については、別冊の「単元指導案集」に示す。

令和2年度は、上記の教科における目標と既存の活動プログラムのねらいを融合させながら、育成を目指す資質・能力を明確にさせることができた。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進するこ

とが求められていることを受け、それぞれに目指す子どもの姿や指導のポイントを位置付け、学習活動が展開できるようにし、6つの単元指導案を作成することができた。しかし、作成した単元指導案をもとにした実践と検証までは至らなかったため、それを次年度の課題とした。

## 5 本年度（令和3年度）の研究内容（2年次）

- (1) 集団宿泊学習における体験活動等の有効性について、I K R 調査(注1)を実施し、児童生徒の「生きる力」の変容を検証する。
- (2) 集団宿泊学習実施校を対象に教科等と関連付けた活動プログラムの単元指導案について、アンケート調査を実施し、意見を集約する。
- (3) 集団宿泊学習において、単元指導案に基づいて活動プログラムを展開し、検証する。
- (4) 新たに教科等と関連付けた活動プログラムの単元指導案を作成する。
- (5) 主催事業（悠遊学舎シリーズ）において、「体験活動」と「生きる力」の関連性を検証する。

(注1) 橘直隆氏（筑波大学大学院人間総合科学研究科教授）と平野吉直氏（信州大学教育学部教授）が開発した「生きる力」を測定するためのアンケート調査

## 6 研究計画

### (1) 研究推進のための会議等

ア プロジェクト研究会議（毎月第4週を基本とする）

イ 研究推進委員会（主任会，臨時会議）

#### 〔プロジェクト研究計画〕

期 日	領 域	研 修 内 容
4 5	プロジェクト研究 課内業務研修	・本年度の研修の進め方について：1 班主任 ・職員マニュアル読み合わせ (1 研修指導心得，2 研修指導法 P1～21)
5 24	プロジェクト研究 課内業務研修	・本年度のプロジェクト研究の進め方と組織，分担等：1 班主任 ・主催事業の報告の仕方について：2 班主任
6 21	プロジェクト研究 課内業務研修	・プロジェクト研究の進捗状況：1 班主任 ・新規プログラム，新規主催事業について：2 班主任
7 19	プロジェクト研究 課内業務研修	・プロジェクト研究の方向性の確認と修正：1 班主任 ・新規レビュー（次年度主催事業について）：2 班主任
8 23	プロジェクト研究 課内業務研修	・プロジェクト研究の進捗状況：各班より ・新規プログラムについて：各班の各係より
9 21	プロジェクト研究	・プロジェクト研究のまとめ方：1 班主任
10 22	プロジェクト研究	・プロジェクト研究の進捗状況確認：各班より
11 19	プロジェクト研究 課内業務研修	・研究誌のまとめ方：1 班主任 ・マニュアル見直しについて（新規プログラム等の提案）：1 班
12 20	プロジェクト研究	・研究の成果と課題：1 班主任
1 24	プロジェクト研究	・次年度研究内容について（アンケート集計等を基に）：1 班主任 ・研究紀要の校正分担：1 班主任
2 21	プロジェクト研究	・次年度の研修の進め方について①
3 14	プロジェクト研究	・次年度の研修の進め方について②

## (2) 受入事業

集団宿泊学習実施校の児童生徒を対象に I K R 調査を行い，集団宿泊学習の有用性を検証する。また，集団宿泊学習等の活動プログラムにおいて，単元指導案をもとにプログラムを展開し，検証する。

## (3) 主催事業

体験活動の効果などを，それぞれの主催事業で検証していく。「悠遊学舎シリーズ」においては，I K R 調査を行い「生きる力」の変容を検証する。

月	事業名	中心となる体験活動プログラム
4	たけのこホリデイ①	タケノコ掘り
	たけのこホリデイ②	タケノコ掘り
5	ファミリーデイキャンプ春物語	野外炊事，テント設営・撤収
	春の星空観望会	【中止】
6	悠遊学舎 夏のわくわくデイ	クラフト活動，調理，自然体験活動
7	ファミリーキャンプ夏物語①	【中止】
	ファミリーキャンプ夏物語②	野外炊事，テント設営・撤収
	悠遊学舎わくわくサマーキャンプ	野外炊事，テント設営・撤収，自然体験活動，クラフト活動
8	夏休み工作教室	【中止】
	夏の星空観望会	【中止】
9	青少研観月会	【中止】
10	ファミリーキャンプ秋物語①	【中止】
	ファミリーキャンプ秋物語②	野外炊事，テント設営・撤収
11	悠遊学舎 秋のわくわくデイ	クラフト活動，調理，自然体験活動
12	社会教育セミナー（延期開催）	自然体験活動，野外炊事，レクリエーション
	自然素材で作るクリスマスリース・ミニリース	自然素材収集，リースづくり
	冬の星空観望会	星や星座の学習，流星の観望
	家族で楽しむ正月飾り	門松等の由来の学習，門松づくり
1	悠遊学舎わくわくウインターキャンプ	野外炊事，テント設営・撤収，自然体験活動，クラフト活動
	ファミリーキャンプ冬物語	【中止】
通年	青少研ほっとスペース	野外活動，クラフト活動等 （希望する活動を通年で展開）

## 7 研究の実際

### (1) 集団宿泊学習における体験活動の有効性についての検証

本センターにおける集団宿泊学習の教育的効果を調査・検証するために、本年度、集団宿泊学習を実施した学校を対象に「生きる力」の変容を測定する I K R 調査〔簡易版〕（「生きる力の測定・分析ソフト」独立法人国立青少年教育機構）を実施し、「生きる力」を数値化し、比較することとした。

集団宿泊学習のプログラムを調整していく中で、いくつかの学校にアンケート調査を依頼し、事前調査を入所時の「出会いのつどい」後に、事後調査を退所時の「別れのつどい」前に、児童生徒全員を対象として実施し、その変容を分析することにした。

本年度は1学期から2学期にかけて集団宿泊学習を実施した学校の中から12校（小学校10校/557人、中学校2校/79人）に調査協力をいただいた。

I K R 調査（簡易版）  
とは

28項目の質問（6段階評価）から、「心理的社会的能力」・「徳育的能力」・「身体的能力」の3つの能力で「生きる力」を数値化し、測定・分析するものである。

### 《 I K R 調査（簡易版）の調査項目 》

能 力		調 査 項 目 （28項目）	
生 き る 力	心理的社会的能力	非 依 存	いやなことは、いやとはっきり言える
			小さな失敗をおそれない
		積 極 性	自分からすすんで何でもやる
			前向きに、物事を考えられる
		明 朗 性	だれにでも話しかけることができる
			失敗しても、立ち直るのがはやい
		交 友 ・ 協 調	多くの人に好かれている
	だれとでも仲よくできる		
	現 実 肯 定	自分のことが大好きである	
		だれにでも、あいさつができる	
	視 野 ・ 判 断	先を見通して、自分で計画が立てられる	
		自分で問題点や課題を見つけることができる	
	適 応 行 動	人の話をきちんと聞くことができる	
		その場にふさわしい行動ができる	
徳育的能力	自 己 規 制	自分かってな、わがままを言わない	
		お金やモノのむだ使いをしない	
	自 然 へ の 関 心	花や風景などの美しいものに、感動できる	
		季節の変化を感じるができる	
ま じ め 勤 勉	いやがらずに、よく働く		
	自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる		
思 い や り	人のために何かをしてあげるのが好きだ		
	人の心の痛みがわかる		
身体的能力	日 常 的 行 動 力	早寝早起きである	
		からだを動かしても、疲れにくい	
	身 体 的 耐 性	暑さや寒さに、まけない	
とても痛いケガをしても、がまんできる			
野 外 技 能 ・ 生 活	ナイフ・包丁などの刃物を、上手に使える		
	洗濯機がなくても、手で洗濯できる		

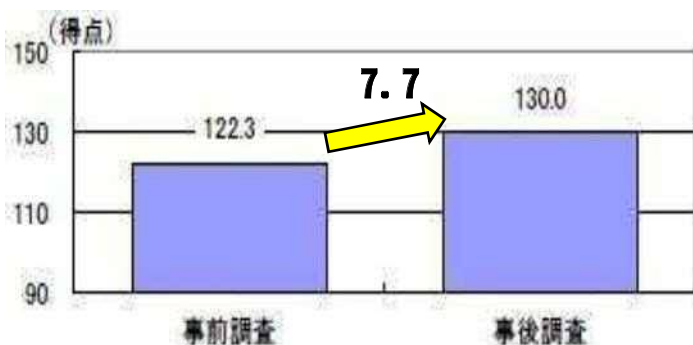


# 《令和3年度 集団宿泊学習においてIKR調査を実施した12校の結果》

【小学校10校：児童557人，中学校2校：生徒79人 計636人】

## 「生きる力」28項目の集計

能力	調査項目	事前調査		事後調査		差
		M	SD	M	SD	
生きる力		122.3	21.7	130.0	24.1	7.67
心理的社会的能力		60.3	11.8	64.3	12.9	4.07
非依存	1. いやなことは、いやとはっきり言える	4.2	1.3	4.6	1.4	0.44
	15. 小さな失敗をおそれない	4.1	1.5	4.5	1.5	0.39
積極性	11. 自分からすすんで何でもやる	4.4	1.2	4.7	1.2	0.30
	25. 前向きに、物事を考えられる	4.2	1.3	4.6	1.3	0.37
明朗性	5. だれにでも話しかけることができる	4.6	1.4	4.9	1.3	0.30
	19. 失敗しても、立ち直るのがはやい	4.2	1.4	4.5	1.5	0.31
交友・協調	7. 多くの人に好かれている	3.5	1.3	3.7	1.4	0.24
	21. だれとでも仲よくできる	4.7	1.3	4.9	1.3	0.12
現実肯定	9. 自分のことが大好きである	3.9	1.6	4.0	1.7	0.13
	23. だれにでも、あいさつができる	5.2	1.0	5.3	1.0	0.11
視野・判断	3. 先を見通して、自分で計画が立てられる	4.0	1.2	4.5	1.3	0.44
	17. 自分で問題点や課題を見つけることができる	4.2	1.3	4.5	1.3	0.35
適応行動	8. 人の話をきちんと聞くことができる	4.9	1.1	5.0	1.0	0.18
	22. その場にふさわしい行動ができる	4.2	1.2	4.6	1.2	0.40
徳育的能力		36.9	6.6	38.8	7.1	1.90
自己規制	14. 自分かっとな、わがままを言わない	4.4	1.3	4.6	1.3	0.27
	28. お金やモノのむだ使いをしない	4.7	1.4	4.9	1.4	0.14
自然への関心	6. 花や風景などの美しいものに、感動できる	4.4	1.4	4.6	1.4	0.25
	20. 季節の変化を感じることができる	4.6	1.3	4.9	1.3	0.28
まじめ勤勉	12. いやがらずに、よく働く	4.4	1.2	4.7	1.2	0.26
	26. 自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる	5.0	1.1	5.2	1.0	0.19
思いやり	2. 人のために何かをしてあげるのが好きだ	4.7	1.1	4.9	1.1	0.23
	16. 人の心の痛みがわかる	4.6	1.3	4.9	1.2	0.27
身体的能力		25.2	5.7	26.9	6.2	1.70
日常的行動力	13. 早寝早起きである	4.0	1.5	4.5	1.5	0.50
	27. からだを動かしても、疲れにくい	4.2	1.5	4.3	1.5	0.13
身体的耐性	4. 暑さや寒さに、まげない	4.2	1.5	4.5	1.5	0.36
	18. とても痛いケガをしても、がまんできる	4.5	1.4	4.6	1.5	0.09
野外技能・生活	10. ナイフ・包丁などの刃物を、上手に使える	3.9	1.6	4.2	1.6	0.32
	24. 洗濯機がなくても、手で洗濯できる	4.4	1.5	4.7	1.4	0.30



各項目で「とてもよくあてはまる」を6点、「まったくあてはまらない」を1点として、それぞれ1点刻みで得点化し、項目ごとに平均値 (M) 及び標準偏差 (SD) を算出

図1 「生きる力」の平均値の推移

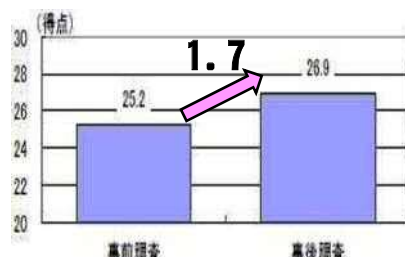


図2 「心理的社会的能力」の平均値の推移

図3 「徳育的能力」の平均値の推移

図4 「身体的能力」の平均値の推移

集団宿泊学習の事前調査と事後調査を比較すると、質問項目によっては値の下がる学校もあったが、「心理的社会的能力」「徳育的能力」「身体的能力」の3つの能力ごとにまとめて比較すると全ての学校のポイントが向上していた。それにともない、全ての学校において「生きる力」のポイントが向上しており、平均で7.7ポイントの向上があった。

以下に3つの各能力において、ポイントの向上が高かったものをそれぞれ3項目ずつ示して考察する。

〔心理的社会的能力〕

「心理的社会的能力」「徳育的能力」「身体的能力」の3つを上位能力とし、それをさらに細分化した能力を下位能力とする。

	下位能力	調査項目	向上ポイント
1	非依存	いやなことは、いやとはっきり言える	0.44
2	視野・判断	先を見通して、自分で計画を立てられる	0.44
3	適応行動	その場にふさわしい行動ができる	0.40

心理的社会的能力における傾向としては、「非依存／いやなことは、いやとはっきり言える」の質問項目が、最も向上したポイントが高かった。これは、集団宿泊学習を通して、寝食をともにし、体験活動に協力して取り組む中で、活動班・学級・学年間で互いにコミュニケーションを取りながら信頼関係が生まれ、それと同時に連帯感・所属感が高まり、安心して自分の思いや考えを伝えることができる関係が構築されたのではないかと捉えた。このことが、「支え合う」、「高め合う」、「学び合う」集団へとつながっていくものだと考える。また、集団宿泊学習は、先を見通して自ら行動を起こさなければならぬ状況での展開となるため、そのことを意識して個々が体験活動に取り組んだり、生活したりしたことにより「視野・判断／先を見通して、自分で計画を立てられる」の値もポイントが高く向上したと考える。さらに、「適応行動／その場にふさわしい行動ができる」の値の向上には、集団で活動する中でどのような行動をとることが適切なのかを個々が考え、意識して行動できたことにつながったものだと考える。

上記項目に次いで「非依存／小さな失敗をおそれない」という項目のポイントも高い値を示していた。体験活動を通して得られる成功体験や達成感から自己肯定感が高まり、失敗を恐れない挑戦心が高まったと言える。

「現実肯定／だれにでも、あいさつができる」という項目は向上したポイントが0.11ポイントと低かった。これは、コロナ禍にあり、本センターの利用において他校と重ならないように単独校実施であったり、複数校で利用する場合においても交流する機会を少なくするよう調整したりすることによる影響だと思われる。

〔徳育的能力〕

	下位能力	調査項目	向上ポイント
1	自然への関心	季節の変化を感じることができる	0.28
2	思いやり	人の心の痛みがわかる	0.27
3	自己規制	自分かってな、わがままを言わない	0.27

徳育的能力における傾向としては、やはり、「自然への関心／季節の変化を感じる事ができる」の向上したポイントが高い。本センターの特色の一つである雄大で豊かな自然の中で野外協力ゲームやオリエンテーリングなどの体験活動が展開されるため、より身近に自然を体感することができ、日常生活では得られない気付きから豊かな感受性が生まれたのだと言える。また、「自己規制／自分かってな、わがままを言わない」の値の向上から、共同生活における他者との関わりを通して自律心が高まっていったと考える。

上記項目に次いで「まじめ勤勉／いやがらずに、よく働く」という項目のポイントも高い値を示している。事前学習や体験活動前の係分担で、自分のやるべき役割をしっかりと把握した上で、責任をもって取り組んだことの表れである。(同じ「まじめ勤勉／自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる」という項目は、事前調査の値が高いため、向上ポイントは低い。)このことが、集団の中で、役割を果たせたという自己有用感の高まりにつながり、さらには集団への所属感を高めることへとつながるのではないかと考える。

### 〔身体的能力〕

	下位能力	調査項目	向上ポイント
1	日常的行動力	早寝早起きである	0.50
2	身体的耐性	暑さや寒さに、まけない	0.36
3	野外技能・生活	ナイフ・包丁などの刃物を、上手に使える	0.32

身体的能力における傾向としては、「日常的行動力／早寝早起きである」という項目の向上したポイントが高い。決められた生活時間の中で過ごすことで、規則正しい生活ができたことを実感したのだと捉える。さらに、普段の生活においては、必要と感じたときにエアコン等で適切な温度に調整できるため、思うように利用できない中で、自分にも我慢できたという思いが生まれたのだと考える。これらのことが、「自分はできた」、「自分もできる」という自信につながったと考える。また、「野外技能・生活／ナイフ・包丁などの刃物を、上手に使える」においては、クラフト活動や野外炊事などの体験活動で扱う道具を慎重に且つ安全に留意して使用し、制作物や食事を作り上げたという喜びが達成感・成就感へとつながり、それが上手に使えたという自信に結びついたものだと考える。この成功体験の積み重ねが自己肯定感のさらなる向上につながっていくものだと考える。

次に、各学校の利用形態ごとに、実施した活動プログラムを示しながら I K R 調査の結果を例示する。昨年度から新型コロナウイルス感染症の影響で、各学校が実施している集団宿泊学習も形態を変えての実施となっている。本センターは県の宿泊施設の感染防止対策認証制度の認証を受けているが、宿泊を兼ねない 1 日研修や、泊なしの 2 日間研修などをはじめ、従来通りの 1 泊 2 日、2 泊 3 日など利用形態は様々である。また、学校のねらいによって、キャンプ場を利用したり、宿舎を利用したりしながら、児童生徒の実態に沿った活動プログラムを計画し、実施している。

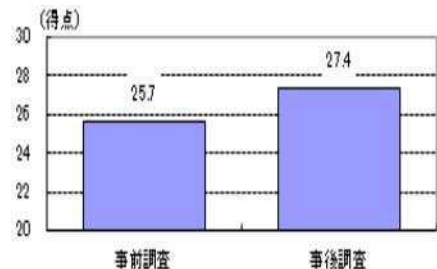
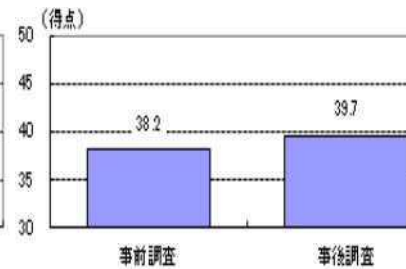
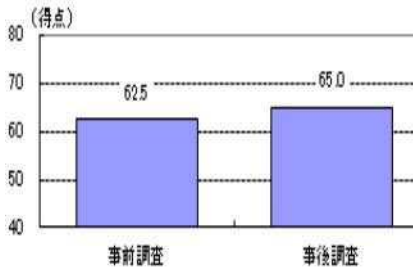
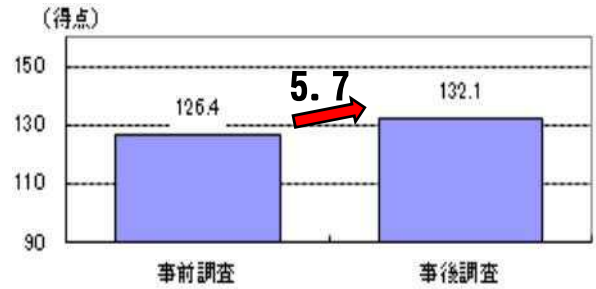


【調査例1】 A小学校（児童：30人）6月中旬 1日研修

本館利用

〔活動内容〕

1日目	年輪ネックレス, 室内運動会
2日目	—
3日目	—



「心理的社会的能力」の平均値の推移

「徳育的能力」の平均値の推移

「身体的能力」の平均値の推移

特にポイントが大きく向上した項目

適応行動

その場にふさわしい行動ができる。(心理的社会的能力：0.8向上)

身体的耐性

暑さや寒さに、まけない。(身体的能力：0.7向上)

視野・判断

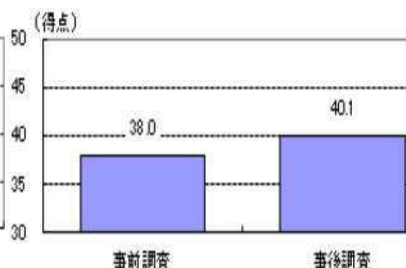
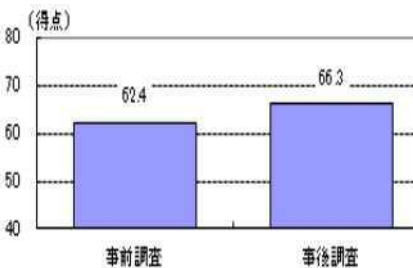
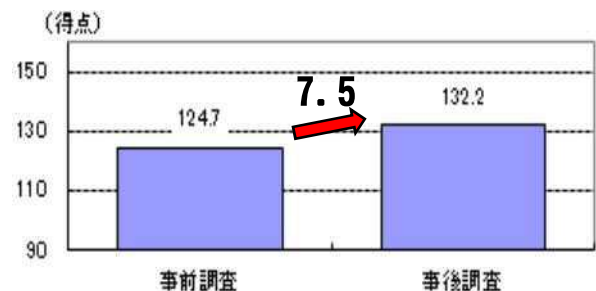
自分で問題点や課題を見つけることができる。(心理的社会的能力：0.6向上)

【調査例2】 B小学校（児童：67人）12月中旬 1泊2日

本館泊

〔活動内容〕

1日目	出会いのつどい, 野外協力ゲーム, 星の観望
2日目	オリエンテーリング, 年輪ネックレス, 別れのつどい
3日目	—



「心理的社会的能力」の平均値の推移

「徳育的能力」の平均値の推移

「身体的能力」の平均値の推移

特にポイントが大きく向上した項目

非依存

いやなことは、いやとはっきり言える。(心理的社会的能力：0.6向上)

視野・判断

先を見通して、自分で計画が立てられる。(心理的社会的能力：0.5向上)

視野・判断

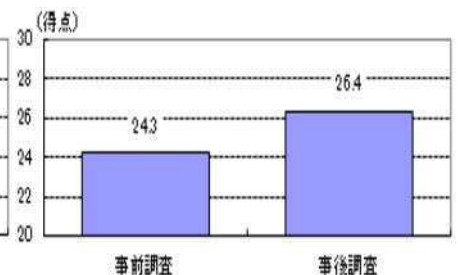
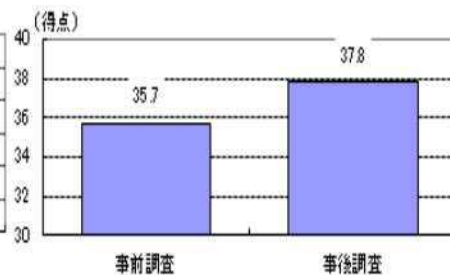
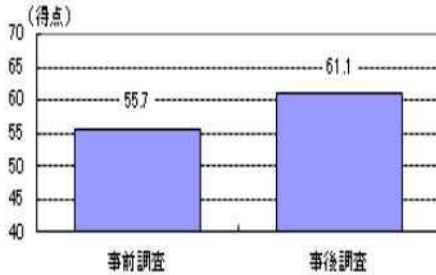
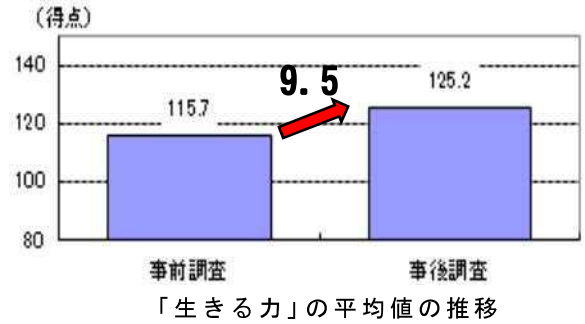
自分で問題点や課題を見つけることができる。(心理的社会的能力：0.5向上)

【調査例3】 C小学校（児童：66人）11月上旬 2泊3日

本館泊のみ

〔活動内容〕

1日目	出会いのつどい，レクリエーション2，グループワークトレーニング
2日目	ベニヤパズル，室内運動会，星の観望
3日目	野外炊事，別れのつどい



特にポイントが大きく向上した項目

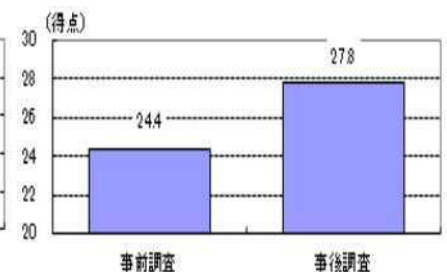
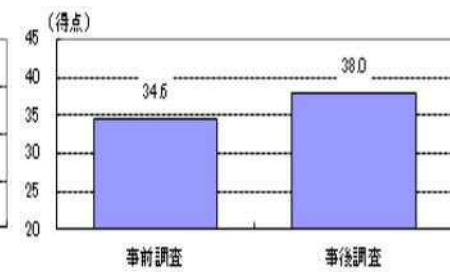
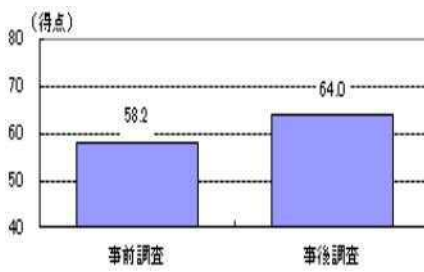
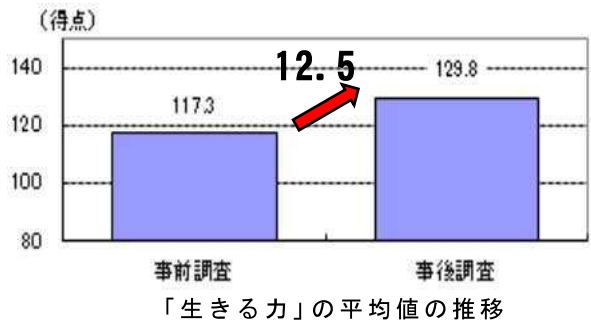
視野・判断	先を見通して，自分で計画が立てられる。（心理的社会的能力：0.8向上）
非依存	小さな失敗をおそれない。（心理的社会的能力：0.7向上）
積極性	自分からすすんで何でもやる。（心理的社会的能力：0.7向上）

【調査例4】 D小学校（児童：62人）5月下旬 2泊3日

キャンプ場泊→本館泊

〔活動内容〕

1日目	出会いのつどい，テント設営，野外炊事 キャンプファイヤー
2日目	テント撤収，野外協力ゲーム，星の学習
3日目	ベニヤパズル，別れのつどい



特にポイントが大きく向上した項目

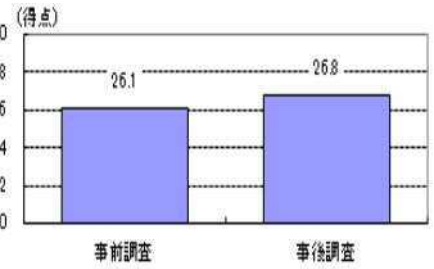
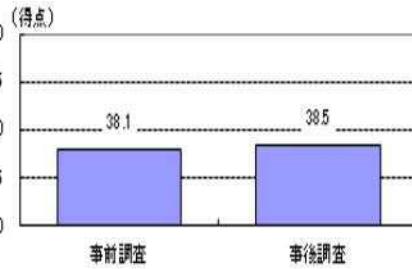
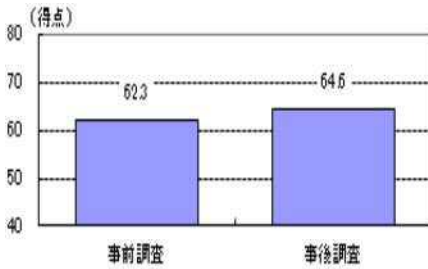
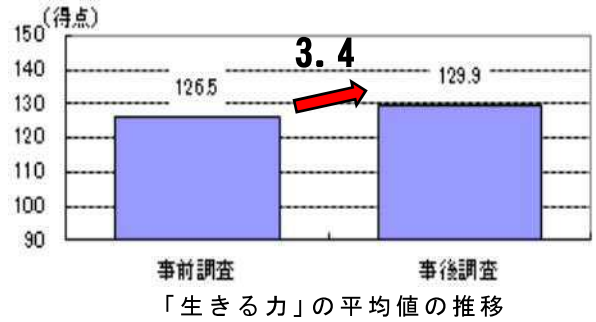
非依存	いやなことは，いやとはっきり言える。（心理的社会的能力：0.8向上）
日常的行動力	早寝早起きである。（身体的能力：0.8向上）
野外技能・生活	ナイフ・包丁などの刃物を，上手に使える。（身体的能力：0.8向上）

【調査5例】 E中学校（生徒：61人）5月中旬 1泊2日

本館泊

〔活動内容〕

1日目	出会いのつどい，竹ばし，星の学習
2日目	野外炊事，別れのつどい
3日目	—



特にポイントが大きく向上した項目

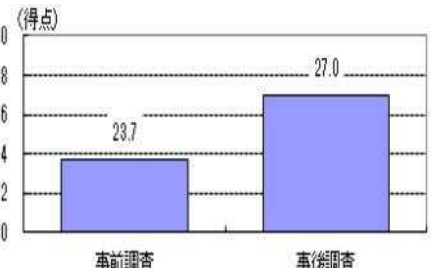
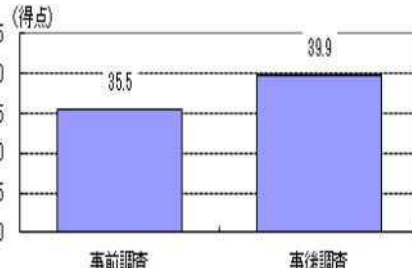
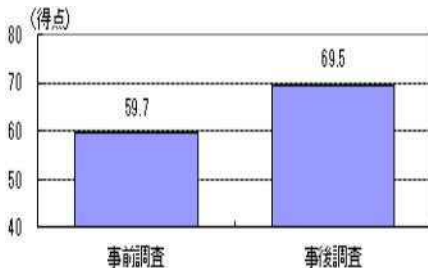
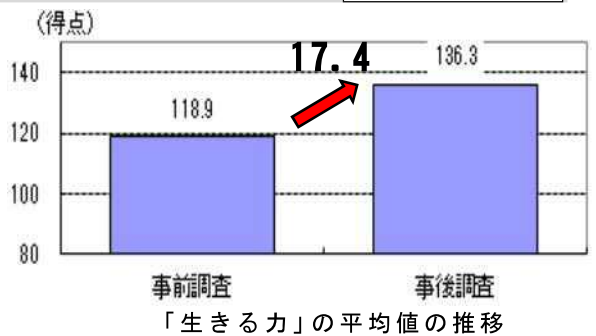
- 交友・協調** だれとでも仲よくできる。(心理的社会的能力：0.3 向上)
- 適応行動** その場にふさわしい行動ができる。(心理的社会的能力：0.3 向上)
- 視野・判断** 先を見通して，自分で計画が立てられる。(心理的社会的能力：0.3 向上)

【調査例6】 F中学校（生徒：20人）5月中旬 1泊2日

キャンプ場泊

〔活動内容〕

1日目	出会いのつどい，テント設営，野外炊事 灯のつどい
2日目	テント撤収，七宝焼き，別れのつどい
3日目	—



特にポイントが大きく向上した項目

- 明朗性** だれにでも話しかけることができる。(心理的社会的能力：1.2 向上)
- 適応行動** その場にふさわしい行動ができる。(心理的社会的能力：1.0 向上)
- 積極性** 自分からすすんで何でもやる。(心理的社会的能力：1.0 向上)

以上のように調査例を示したが、「生きる力」の変容について、利用形態や実施した活動プログラムによる変容の違いを確認することはできなかった。そのため、変容の傾向をつかむためには、さらに多くの I K R 調査を実施し、分析する必要がある。

## (2) 単元指導案についてのアンケート

令和2年度に作成した6つの単元指導案を一つにまとめ、「単元指導案集」を作成した。その単元指導案集を集団宿泊学習プログラム調整会時に、参加した全ての学校へ配布し、作成の意図を説明し、利用する側からの意見を参考にするためにアンケート調査を行った。

### 単元指導案集についての先生方の感想

- どの単元の内容から時数をとるのか、また、その活動内容も詳しく書かれているので、そのまま指導計画に入れられると思いました。
- 時数確保の一助となると感じました。
- 教科とのつながりが明確で、体験を通した指導に役立てると感じました。
- 1つ1つの活動目標、流れ、評価まで示されていて指導する際に役立つと思いました。学習指導要領の目標を意識して指導していこうと改めて感じました。
- 単元目標や具体的な活動内容まで詳細に説明されていると思います。主体的で対話的な深い学びの視点についてまとめてある部分も、とてもよいと感じました。
- 施設設備の関係で題材配列の中に工芸（焼物）を入れられない学校は少なくないと思います。集団宿泊学習の機会に貴重な体験ができるのはありがたいです。
- よく練られていると思います。

アンケートから、単元指導案について高い評価を得ていることがわかった。学校としても、時数確保のための一つ的手段として有効であるとの認識も伺える。このことから、学校が集団宿泊学習で取り入れたい活動プログラムを教科等と関連付けて提案し、さらに多くの単元指導案を作成していくことの必要性を確認できた。

この単元指導案を教育課程編成時または集団宿泊学習企画の際に参考にしてもらうためには、この取組を広く周知する必要があるため、広報の手段も考えていかなければならない。

さらに、現段階では本センターの既存の活動プログラムを教科等と関連付けて単元指導案を作成しているが、学習指導要領に沿って、学校が導入しやすい新規活動プログラムの開発を行い、その単元指導案を作成していくことも利用校を増やしていく上では必要である。

## (3) 単元指導案を活用した活動プログラムの検証

令和2年度に作成した単元指導案を検証するため、集団宿泊学習の中で、希望の活動プログラムと単元指導案の活動プログラムが一致した学校に協力を依頼し、単元指導案に沿った活動プログラムの展開を検証した。

活動プログラム名	ベニヤパズル
校種・学年	小学校・5年生
単元名	糸のこの寄り道散歩
単元目標	

曲線切りした板の形や色の組み合わせ方を試したり，見付けたりして，創造的に発想する力や構想する力を培う。

## プログラムの実際

10月14日（木）研修Ⅰ（9:30～12:00）

対象児童：小学5年生／16人

引率教諭：3人

担当センター職員：主担当1人 副担当1人

授業時数：図画工作／4時間

（学校：1時間，本センター：3時間）

プログラム調整時及び活動プログラム開始前に，単元指導案を活用した活動プログラムの展開について，担任教諭と本センターの担当職員とで，単元指導案をもとに，活動プログラム展開の流れや役割分担，安全面への注意点・配慮事項等の入念な打合せを行った。

本センター職員2人が主になり活動プログラムを展開するため，担任教諭及びその他の引率教諭は，サポート的な支援をしながら机間指導にて，評価基準をもとに子どもたちの活動の様子を観察する流れで展開した。



【学習課題をとらえる】



【ベニヤ板に下絵を描く】

### 学校における学習（1時間）

- 1 ベニヤパズルについて理解する。
- 2 ベニヤパズルの構想を練り，ワークシートに下絵を描く。



### 青少年研修センターにおける学習（3時間）

- 1 学習課題をとらえる。

電動糸のこを使い，曲がった線を切るにはどのようにしたらよいだろうか。

- 2 ベニヤ板に下絵を描く。



【電動糸のこの使い方を知る】

- 3 電動糸のこの安全な使い方について知る。
- 4 電動糸のこでベニヤ板を切断する。
- 5 切断したベニヤ板を紙やすりで磨く。
- 6 絵具で色付けする。
- 7 スプレーノスを吹き付ける。
- 8 完成した作品をもとに，ワークシートで振り返る。
- 9 鑑賞会を行い，お互いの作品のよいところを見つける。
- 10 ワークシートにまとめる。
- 11 活動の振り返りを行い，考えや思いを共有する。



【電動糸のこで切断する】



【絵具で色付けする】



【鑑賞会をする】

### 単元指導案について（担任教諭の感想）

- 事前指導にとっても有効活用できた。
- 子どもたちも見通しをもって，活動に取り組むことができた。
- 評価の観点も示されており，見取りがしやすかった。

### 単元指導案を活用しての感想（担任教諭の感想）

- 特にベニヤパズルは，学校での実施が難しいため，とても有り難かった。
- 学校の電動糸のこの保有数には限りがあるため，多くの電動糸のこで一斉に効率よく作業ができ，時間の短縮につながった。
- 子ども達も短時間で電動糸のこを使うことだけでなく，上達してよかった。
- センター職員が複数で支援をしてくれたため余裕があり，安心して見守れた。
- ワークシートもあり，指導しやすかった。
- 来年度も是非，活用したい。

### 【成果と課題】

- 本センターが所有する電動糸のこは 11 台あり，オリエンテーション室で一斉に稼働することができる。そのため，児童の待ち時間を少なくすることができ効率よく展開できた。
- 制作から作品の鑑賞会までを連続して行う事ができ，活動にまとまりがあった。
- 担任教諭はサポート的な役割で机間指導

ベニヤパズル：ワークシート No.1

( )小学校 年 組 名前( )

○ 自分めあて

けがれをいよほど、きれいにする

○ 次のことに注意して、パズルの絵をワークシートNo.2に描いてみよう。

- 1 できるだけ大きくて、簡単な絵にする。
- 2 パズルのピースは8〜10個程度にする。
- 3 パズルの絵は、複雑にしない。
- 4 紙でも構わない。

○ 自分の作品の気に入っているところや頑張ったところを書きましよう。

一途な絵ではなく、自分で曲めた景色を考えて、それと合わせてきれいに切ることができた。そして電動糸のこを使って、ガクガクな音がして、きれいな形ができた。

○ 友だちの作品のよいところやすてきなところを伺えましよう。

名 前	よいところ・すてきなところ
さとうさん	きれいな形や、おもしろい絵が、いいと思った。
たけさん	くねくねの形や、わりといい絵が、いいと思った。
おのりさん	大きい形や、きれいな色、きれいな形や、おもしろい絵が、いいと思った。
あささん	きれいな形や、おもしろい絵が、いいと思った。

【児童のワークシート】

ができるため、余裕をもって児童の様子を観察することができた。

- センターの利点（工具や道具の保有数、活動場所等）と職員の専門性を生かし、効果的に展開できた。
- 学校との事前打合せの中で、児童の実態を把握し、引率教諭との役割分担をさらに明確化することで、より効果的な展開ができる。
- 学校の規模によっては、活動時間を増やしたり、鑑賞会を午後から実施したりするなどの展開の工夫が必要である。
- 同日に他校と同じプログラムが重なった場合、調整する必要がある。

#### (4) 単元指導案の作成

学校にとっては、単元指導案の数を増やし、選択肢を増やすことで活用しやすくなる。そこで、本年度も教科等に関連づけた活動プログラムの単元指導案を作成することにした。昨年度は、集団宿泊学習を意識しての作成だったが、本年度は、一日遠足でも活用できるような活動プログラムも選択し、研修班で分担して3つの分野から1つずつ単元指導案を作成した。

##### 《野外活動及び自然観察》

活動プログラム	学 年	教科等	単 元 等
白銀坂遠行	小学5年	社会	わたしたちの生活と森林

※ 詳細については、別冊の「単元指導案集」に示す。

##### 《文化創作（クラフト）活動》

活動プログラム	学 年	教科等	単 元 等
昆虫クラフト	小学3年	理科	昆虫を調べよう

※ 詳細については、別冊の「単元指導案集」に示す。

##### 《演習》

活動プログラム	学 年	教科等	単 元 等
グループワーク トレーニング	中学1年	特別な教科 道徳	① 主として集団や社会との関わりに関すること [よりよい学校生活、集団生活の充実]

※ 詳細については、別冊の「単元指導案集」に示す。